



~R6.11月実施分

1. スマイル・トークレリレー「FLAT」から「FLATへ」	P. 1
2. 実施状況	P. 1
3. 実施一覧	P. 2
4. R6取組方針	P. 3
5. 実施団体別主な内容	P. 4
6. 「市民の声」として対応	P.21

令和 6年 12月
政策推進部市民連携課

1. スマイル・トークリレー「FLAT」から「FLAT-ふらっと-」へ

令和5年5月に開始したスマイル・トークリレー「FLAT」は、山本市長が公約として掲げる、「対話の文化で描くまちづくり」実現のための事業であり、市長と市民の皆様が「FLAT(目線を同じく・対等な立場)」に対話を重ねる事業。

令和6年度は、名称をシンプルにわかりやすく「FLAT-ふらっと-」に変更、テーマを「みんなではなす、みんなでつくる」「FLATに話せる、ふらっと来たくなる」とし、積極的に市民の皆様と対話を続けている。

山本市長発言(R5.9月議会)

○「FLAT」を実施しての所感…

「市民の皆様やさしさに触れ合う時間になっています。多くの市民の皆様との対話を通じて、市民の皆様がむつ市のことを思い、家族のことを思い、町内のことを思い、そして私の身体のことまで気遣ってくれる市民の方がいることに気づきました。そして、市民の皆様から課題や現状を伺うだけでなく、むつ市政を直接市民の皆様にお伝えする場にもなっていると感じています。(中略) 今後も、市民の皆様との対話を通じて市の課題解決の糸口を探るなど、市民協働によるまちづくりに向け、継続して取り組んでまいります。」

2. 実施状況

■ 参加者数等

14団体 284人

※うち、属性が把握できた方は下記のとおり

	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	13	23	36	19	8	8	12	3	122
女性	19	4	7	9	12	5	21	5	82
合計	32	27	43	28	20	13	33	8	204

■ 参加者の感想

アンケート実施会について一部抜粋

○参加されてどうでしたか? ※136名の方から回答いただきました。

1. 有意義…125人 2. 期待外れ…1人 3. どちらとも言えない…10人

○次回も参加したいですか? ※100名の方から回答いただきました。

1. 参加希望…91人 2. 参加しない…0人 3. どちらとも言えない…8人 4. 無回答…1人

多くの方から、有意義であり次回も参加したいとの回答をいただいております

3. 実施一覧

No.	月日	曜日	団体名	参加者数	ページ
第1回	5月21日	火	むつ青年会議所	61人	4
第2回	6月26日	水	オンライン「FLAT」	8人	4
第3回	7月18日	木	ケアライフ青森むつ営業所	12人	5
第4回	7月23日	火	上川町町内会	16人	6
第5回	8月23日	金	川内漁協青年部	8人	8
第6回	8月24日	土	むつスケートボード愛好会	9人	9
第7回	10月11日	金	大畑地区民生委員児童委員協議会	16人	9
第8回	10月12日	土	栗山町町内会	14人	12
第9回	10月14日	月	むつ子育て応援イベント2024 実行委員会	30人	13
第10回	11月18日	月	大畑町商工会、観光協会、法人会、 青色申告会、自衛隊家族会	24人	14
第11回	11月22日	金	むつ養護学校PTA	8人	15
第12回	11月22日	金	関根中学校	28人	17
第13回	11月29日	金	大畑海峡ロデオ	11人	18
第14回	11月30日	土	町内会長	39人	19
合計			18団体 (2町内会、13団体、1校、 1町内会長、1オンライン)	284人	

4. R6 取組方針

市全体会議での資料より

令和6年度「FLAT」の事業展開について

■ あらゆる世代 様々な業界の方との対話を目指して

- ◆ 募集は5月中旬から開始 LINE、広報むつ等
- ◆ 各部局においても関連団体への呼びかけや実施への対応
- ◆ 実施方法例はグループウェアキャビネットにあり



■ 「FLAT」への若手職員の参加

新たな取組

市民連携課実施回に、市民連携課以外の若手職員も参加

【目的】

- ◆ 市職員の地域コミュニティへの参画意識の醸成
- ◆ 市長と市民の対話を聞くことにより、市政&市民目線を知る
- ◆ 来庁者の少ない部署職員においては市民対応力、またはファシリテーター力の向上

【想定】

- ◆ 対象・・・若手職員を広く募集&採用〇年目職員から順に ←採用2年目を予定
- ◆ 本来の業務に差し支えない範囲で、OJT扱い ←募集や調整は市民連携課
- ◆ 夜間・土日開催時の参加も可 ←業務として時間外勤務
- ◆ 参加職員については、事業意図・役割等を説明し、可能な範囲で担当業務を割り振り当日参加いただく

■ 「FLAT」への部局長の参画

- ◆ 担当部局開催時はもとより、他の部局での「FLAT」にも積極的に参画

市民の声を直接聞き
市の施策へと展開

市民の声を、市の各組織に一層浸透させる狙いから、担当課のみではなく、幹部職員や若手職員が出席する。

開催方法（形式）も幅広く。

R6.5月記者会見資料

令和6年度「FLAT」について

■ あらゆる世代 様々な業界の方との対話を目指します

5月中旬より募集開始

新たな取組

R6年度はオンラインでも開催
会場に来なくても対話ができる！
まずは子育て世代と開催予定

こちらも5月中に募集開始予定

「FLAT-ふらっと-」とは

市長が集いの場に出向き、市民の皆様と「FLAT(目線を同じく)・対等な立場」で対話を重ねる事業。

対話の中から
市の施策へと展開



申込方法

開催希望日の1ヶ月前までに、来庁、郵送、FAX、メールまたは市HP申込フォームにより、担当市民連携課まで

申込先

市民連携課アドレス：renkei@city.mutsu.lg.jp
市HP申込フォーム：https://logoform.lg/f/VuCF4
電話：22-1111（内線2151）
FAX：23-0234

5. 実施団体別主な内容

■第1回 5/21 むつ青年会議所

場 所:むつ来さまい館

参加者:61名

<主な内容>

テーマ:理念(1.自分の理念 2.会社・
クラスの理念)



- 上記テーマについて、参加者がグループに分かれ自分の理念や会社の理念・クラスの理念についてグループで対話
- 市長からはグループ毎での対話に対する感想や市長自身の理念のお話があった。「今回、自身を俯瞰で見つめる一時になったと思う。私の理念は「日月に私照無し」。太陽や月は特定の人だけを照らすのではなく、世の中全体を公平に照らす、そのように私もありたいと常に思っている。」
- 異業種交流の機会としても実施しているため、参加者にとっては市内のいろんな企業の方との対話や、人脈を作る機会でもあったことから大変好評だった。

■第2回 6/26 オンライン「FLAT」

方 法:オンライン

参加者:8名



<主な内容>

テーマ:子育て全般に関して下記のとおり対話

参加者から	市長から
<p>子どもの遊び場について</p> <p>①自然と戯れる大型アスレチック等があると、地域活性化にも繋がるのでは。</p> <p>②学区内に公園がほしい。多くの人の目に触れる公園だと安心する。</p> <p>③市街地活性化のため、イベント広場周辺を綺麗に整備してくれるとよい。</p>	<p>現在、金谷公園の整備を進めている最中で障がいの有無に係なく利用できる遊具を設置する。</p> <p>各公園にある滑り台とブランコは維持する。</p> <p>水源地公園や運動公園のほか、休日は学校の校庭に設置されている遊具も活用してほしい。</p> <p>警察から不審者情報があった際は、各団体に情報提供しているほか、今年度から防犯カメラの設置を進めている。</p> <p>イベント広場については順次改修していく。</p>

参加者から	市長から
第一田名部小東階段の整備をしてほしい。	法面は県の所管であり、階段等は急傾斜地の側溝や法面の管理用通路と思われる。 通学路ではないが、危険防止のための最低限の補修は行う。
柳町の通学路整備をしてほしい。	国道は県の所管となるが、県に要望するためにも周辺に住む方たちの総意として町内会を通して要望してほしい。 また、年1回、関係機関が集まって危険箇所を話しあっているので、学校を通して要望してほしい。
みどりのおばさんを増やしてほしい。	配置には交通量やみどりのおばさんをやっていただける方の有無等、調査が必要となるので、学校を通して要望して欲しい。

- 昨年度市民の方からの御提案でもあったオンラインによる開催を初めて実施。外出が難しいケースもある子育て世代からまずはスタート。
- 子育て中の悩み、市の課題、こども達の未来に必要なものなど各参加者と色々な対話があった。
- 子どもの安全に関する具体的な内容があり、終了直後、市長自ら現地視察にお出かけ。

■第3回 7/18 ケアライフ青森むつ営業所

場 所:地域包括支援センター桜木

参加者:12名



<主な内容>

テーマ:高齢者の移送サービス、公共交通機関利用、医療について下記のとおり対話

項 目	参加者から	市長から
交通政策 (muveについて)	①バスの本数が少ない地域を運行してほしい。 ②個人病院にもバス停を設置してほしい。 ③経路や時刻表などをむつ総合病院のモニターに映して分かりやすくできればいい。	ムーヴィの運営は市ではないが、今年度から交通政策課を立ち上げ、調整役を担っている。 路線拡大は、他社のバスと同じ路線を走ってはいけないというルールがあり、調整が必要。 赤字でも市民のために事業を行っていただいているため、路線拡大には市の予算投入も必要となるが、市民の皆様から意見があれば、検討して議会に提案することができると思う。
オンライン診療	高齢者宅でタブレットを使って、オンライン診療ができるようにしてもらいたい。	むつ総合病院と弘前大学病院のオンライン診療が始まる。オンライン診療は市役所内でも検討しており、看護師が自宅に行き、オンラインで医師と相談し、診療が受けられる体制が整う。

項目	参加者から	市長から
市役所での手続き	手続きのため色々な課を回らなければいけないため、関連する課が近くに並んでいるといい。	市役所の配置は、市民の皆さんがよく利用するところを正面玄関側に並べている。今年度は障がいサービスと高齢者サービスを総合福祉課として一つの窓口にするなど毎年見直しをしている。見直しができるところは行っていく。
アゲハの利活用方法	75歳以下の方でも認知機能の低下や歩行状態の悪化からバス利用が困難な方がいるため年齢制限を65歳以上の介護認定を受けている人に拡大してはどうか。 また、介助者の運賃が無償化されれば、ヘルパーによる移動介助が可能になる。	アゲハが75歳以上としているのは、75歳以上が外に出ない傾向が高いためである。年齢制限の引き下げや、介助者のことも引き続き検討していく。
車椅子やストレッチャーが必要な方の移送サービス	西通地区のヘルパーが不足している。中心部から派遣すると移動だけで1時間以上かかることから派遣できるヘルパー事業者がない。	ヘルパーの人手不足から、中心部から遠い地区は自宅診療が出来なければサービスが回らなくなっていくと思うので、脇野沢、川内あたりからオンライン診療を始めていきたいと考えている。
レスパイト入院※	受け入れしてくれる病院がない。	むつ総合病院もむつリハビリテーション病院も病室に空きはあるが、看護師がいない。院長のみなさんとどのような対応できるか考えていきたい。

※ レスパイト入院:在宅での介護を担われているご家族が日々の介護に疲れを感じ、介護力の限界を超え介護不能となることなどを予防するための入院

■第4回 7/23 上川町町内会

場 所:上川町集会所

参加者:16名



<主な内容>

理想のおつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話をしていただいた。その後グループ内の内容について市長と対話

理想	参加者から	市長から
移動しやすい むつ市	移動しやすいむつ市にするため、アゲハの利用方法やムーヴィの路線の周知をしてもらいたい。 交通を充実させるためには、自分たちがバスをたくさん利用していくことも必要になってくると思う。	4月に交通政策課を立ち上げ、交通対策に取り組んでいる。
綺麗なむつ市	道路の雑草が放置されているため、道路の適切な管理に努めてもらいたい。 自分たちも自宅周辺の環境整備を行っていかなければならない。 公共施設の管理がないがしろになっていることから、建設時からの計画的な管理をしてほしい。	道の駅の整備に併せて周辺の道路を整備していきたい。
子どもがたくさんいるむつ市	子どもがいる家庭への支援に力を入れてほしい。 自分たちも子育てしやすい環境作りに携わっていく必要があると思う。	昨年からの医療費無償化を実施しており、10月からは小・中学校の給食費が無償化になる。 さらに今年から高校生のスクールバス助成を始めた。 子育て支援は、最終的には高齢者支援に繋がるので、力をいれていきたい。
	企業誘致を積極的に進めていく必要があると思う。 キャスク製造工場等の誘致を進めてほしい。	様々な訪問先と繋がりを持つことで企業の誘致を進めていきたい。
新患受付等、スムーズに受診のできる病院があるむつ市	総合病院の医師を増やすなど、誰でも受診できるような環境作りを進めてほしい。 自分たちも民間病院を積極的に利用する必要がある。	デジタル技術を活用して、むつ総合病院と弘前大学病院をオンラインで繋ぎ、診察できるよう取り組んでいる。

➤ この他、むつ市の空き家状況に関する対話等が行われた。

■第5回 8/23 川内漁協青年部

場 所: 桧川荷捌施設

参 加 者: 8名



<主な内容>

テーマ: 漁業についての現状説明を踏まえて下記のとおり対話

項目	参加者から	市長から
漁業に関する課題	機械化したとしても、人の手がかかる。人手不足に悩んでいるので回転してほしい。	将来に向けて投資したいと考えている。
	①使い古した資材の処分費を支援してほしい。 ②ハ尺を市で購入してくれないか。	個人に補助金を出すのは難しいが、皆さんで会社を作るとか、協同事業を行うのであれば補助金を出せる。ナマコの種苗放流や投石に補助しているので、ハ尺代も補助できると思う。
ホタテの地元消費拡大	①ホタテを食べてもらう機会がない。食育などで食べてもらう機会を増やしたい。 ②川内にホタテを食べられるところがないので、屋台とかを出せればよい。	川内地区には地域おこし協力隊がいるので、連携して海の家や店を出すようにすればよいのではないかな。
その他	おつ総合病院にベビーカーを設置してほしい。子ども2人を連れていくのに苦労している。	実態を調べてみる。
	コロナ禍に川内で薬を買うことが難しかったので、ドラッグストアがほしい。	現在、おつ総合病院でオンライン診療を始めようとしている。また、公済会では既にオンラインに対応しているので、活用していただきたい。

➤ 回収したアンケートには、他の漁師との交流を喜ぶ声があった。

■第6回 8/24 むつスケートボード愛好会

場 所:マエダアリーナ駐車場

参 加 者:9名



<主な内容>

テーマ:スケートボードの環境について、現状の状況を共有したうえで下記のとおり対話

参加者から	市長から
スケートボード場の設置について検討してほしい。	むつ市にある廃校を利用してはどうか。 むつ技術専門校にお願いすることで、セクションを作れるかもしれない。 愛好会ではなく、協会を立ち上げて長く利用する形を作ってくれば支援しやすい。
安全に練習できる場所がほしい。	理想としては、皆さんが民間でなかよし会をやりながらスケートボード用の倉庫を運営することがいいと思っている。 なかよし会は1施設当たりの補助があるので、併用できれば運営費を捻出できる。 複合的にやらないと施設の継続は難しい。

- 安全に練習できる場所や、仕組みづくりなどについて対話が行われ、終了直後、市長自ら現地視察にお出かけ。

■第7回 10/11

大畑地区民生委員児童委員協議会

場 所:ふれあいかん

参 加 者:16名



<主な内容>

大畑地区が抱える問題をテーマとして以下のとおり対話

項 目	参加者から	市長から
民生委員児童委員の欠員について	むつ市6地区協議会で28人の欠員があるが、市長はどのように考えているのか。	10月1日時点では21人欠員、充足率は86.7%と把握しております。 少子高齢化で、なり手が減っているという認識だが、むつ市よりも人口が少なく高齢化率が高い市が、充足率100%を達成しているため、何らかの取り組みがされているのかと思うので、実際に活動している皆さんからの御提案を待っています。

項目	参加者から	市長から
民生委員児童委員の欠員について	来年度の一斉改選では欠員が無いように市長にもお願いしたい。	民生委員の欠員対策について、例えば消防団では「消防団応援の店」というのが全国的に始まっており、むつ市でもサービスが受けられる支援がある。 このようなメリットが必要であれば、自分たちが登録を促していくことも可能だと思う。むつ市としてやってもいいと思うので、そのような提案があれば皆さんからお知らせいただければありがたい。
民生委員の処遇について	民生委員に対する処遇の部分で何かしら検討していただきたい。	まずは青森県内の状況を調査させていただく。 その部分に追いついていない部分があれば、対応させていただきたい。 他にも何かあれば対応させていただきたいと思う。
事業者等への協力について	仕事をしている現役世代でも民生委員になる可能性はあると思うので、事業者の協力が得られる体制をつくってほしい。	事業者の皆さんに協力いただくことは大事だと思うので、仕組み作りをする。 例えば、商工会議所に働きかけるだとか、そういうところから始めていきたいと思う。
防災訓練について	防災マップを見る限り大畑地区の8割くらいが津波の被害を受ける。 4,000人が避難する場所はあるのか、その辺を含めて総合的な避難訓練を実施すべきではないか。 また、避難場所のうち、大畑小、大畑庁舎、公民館などは津波で水没してしまうため、大畑高等学校を避難場所として検討してもらいたい。	大畑校舎を避難所にすることも可能だが、津波は30分で来てしまう。 避難には安全確保の一次避難と食べ物があって毛布があって寝るところがある二次避難があり、まずは一次避難として近場の大畑小学校や大畑庁舎を選択し、津波が引いたら二次避難する。 そういった避難の方法が有効だと言われており、はじめから寝泊まりする避難所に避難するということは想定していない。 まずは30分の間に垂直避難、横ではなく高い所に逃げるということを大畑・関根の皆さんには周知している。 今後、避難する丘を作った方がいいか、避難タワーを作った方がいいとか、皆さんの協議しながら整備をしていく。
	大規模な避難訓練を実施してほしい。 また、要避難者をどうするのか将来的に考えてもらいたい。	要避難者として登録されているのは2名で、消防・警察・自衛隊の連携の中で救助することになっている。 大規模な避難訓練はやっていく。

項目	参加者から	市長から
敬老会について	敬老会が再開されるのか伺いたい。	高齢者の皆さんがやりたいと言うのであれば再開してもいいかなと思う。 どちらかと言うと、年に1回の敬老会よりも週1~2回でも皆が地区で集まって100歳体操をやるような仕組み作りの方が良いのではないかなと思うので、今は、普段から顔を合わせる活動方針に力を入れてやらせていただいている状況。
	高齢者は膝が悪くて高頻度で会場まで行くことが出来ないため、年に1回の敬老会を楽しみにしています。再開の検討をお願いします。	いろいろと検討してまいります。
	敬老会が無くても、粗品が届いていた時は祝ってもらっていると感じていたので、そういったものも検討してほしい。	敬老会に関しては、参加者だけが恩恵を受ける形であったことから、公平にするためにお祝い品を配ることにした。集まりたいのかお祝いがほしいのか、意見が割れるところだと思うので、いろいろと議論していきたいと思う。
子育て高齢者福祉について	子ども達ばかりにお金を出して、老人にはメリットが無い。	子育て費用と高齢者にかかる費用は人口比で高齢者の方が高い。 例えば、総合病院の立て替えも子育て世代の支援ではなく、どちらかと言えば高齢者の皆さんに対するもの。
土のう袋の設置場所について	木野部赤川地区は、大畑まで出てくるのに車で10分程かかるので、屯所に土のう袋を置いてほしい。	必要な町内会はお知らせ下さいとアナウンスしており、新町と小目名は新しい土のうステーションが適用された。 木野部赤川地区でも欲しいというのであれば、場所だけ提供してくれば大畑庁舎で対応するので、相談してください。
その他	大畑公民館について、老朽化がひどいので建て替えることができるのか教えてほしい。	公民館も体育館も建て替えたいと思っている。 ただし、それらのあるべき場所についての議論が必要になってくるので、皆さんと相談する機会を作ったうえで考えていかなければならない。
	民生委員としての活動について、行政の速やかなサポートをお願いしたい。	本来行政がやるべきことを皆さんが負担してくれている。 皆さんの力をお借りして、最大限のサポート、バックアップ体制をとっていきたいと思う。

- 回収したアンケートには「世の中の仕組みを考える事はありませんでしたが、楽しくお話を聞くことができ、良かったと思います。」などの声があった。

■第8回 10/12 栗山町町内会

場 所:栗山集会所

参 加 者:14名



<主な内容>

理想のおつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話をしていただいた。その後グループ内の内容について市長と対話

理 想	参加者から	市長から
高齢者が暮らしやすいおつ市	ムーヴィの逆回りの路線をつくってほしい。 自分たちが出来ることは、積極的なバスの利用。	逆回りの路線は関係機関で検討している。交通政策を今後も進めていく。
	むつ病と駐車場間に雨よけ、雪よけを設置してほしい。	検討したい。 なお、感染症センターを解体するので、駐車台数が40台程増える予定。
	声が聞き取れないので、市役所の高齢者向けの窓口では、大きい声を出してほしい。	市役所では毎年接遇研修を実施している。障害者手帳がなくても補聴器の助成が受けられるような制度を検討していきたい。
	FLAT-ふらっと-を毎年開催して市政に反映してもらいたい。	FLAT は情報提供の場にもなっているので継続していきたい。
年配者や若者が充実した生活をしているおつ市	給与や年金を上げるためにも企業誘致をしてほしい。	働いている世代の給与が上がらないと年金も上がらない。 若い世代への政策は高齢者に向けた政策でもあるので、企業誘致を進めていく。
年配者や若者が充実した生活をしているおつ市	神楽などを勉強できる仕組み作りをしてほしい。 自分たちとしては、家族など身近な人たちや町外の人たちを参加させていきたい。	まちゼミで取り組むのも良いと思う。一緒に伝統芸能を守っていきたい。

理想	参加者から	市長から
観光客の多い むつ市	①道の駅に温泉やミニ遊園地などを作り観光客に長く滞在してもらいたい。 ②けいらんや芋餅などのPRをしてほしい。 ③雪像を作り、雪まつりの開催。 ④冬のイベントで歌手などを呼んでほしい。	(道の駅建設のため)まずは縦貫道の早期完成に取り組む。令和14年に縦貫道と大湊バイパスが完成する予定なので県と一緒に頑張っていきたい。 釜伏山スキー場を活用して冬季の観光客を増やす仕組み作りを始めている。
その他	高等教育機関など市内に出来たのはありがたい。	来年度八戸学院大学看護学科ができ、4年後からは毎年10名ずつ看護師が増える予定。

- その他、道路標識に関する対話が行われ、終了直後、市長自ら現地視察にお出かけし、1件を「市民の声」として持ち帰り。

■第9回 10/14

むつ子育て応援イベント2024実行委員会

場 所:下北文化会館

参加者:30名

<主な内容>

テーマ:子育て全般に関して下記のとおり対話



参加者から	市長から
子どもの遊び場を整備してほしい。	既存施設の遊具は計画を立てて更新する。 屋内施設としてドームやアリーナの空きスペースを活用してトランポリンパークのような施設の設置を検討する。
危険な通学路(第一田名部小東側階段と第二田名部小駐車場付近)の整備してほしい。	第一田名部小東側階段は急傾斜地を管轄する県と共に通学路整備を協議中。 第二田名部小駐車場の整備については、順次整備していく。
小学生への防災頭巾の配布。してほしい。	防災マットか防災頭巾を整備したい。 ※参加者に対して、防犯上の観点から配布を疑問視している小学1年生への黄色い帽子やランドセルカバーの必要性について意見を聞いたところ、不要の意見多数。
通学距離に関係がなくスクールバスを利用できるようにしてほしい。 例:城ヶ沢は利用可、途中の宇田町は利用不可。	課題が多く、時間はかかるが検討していく。

- 回収したアンケートに「ふらっと来て、さらっと伝えるだけだったので、気楽だった」等の声があった。

■第10回 11/18

大畑町商工会、観光協会、法人会、
青色申告会、自衛隊家族会

場 所:おたふく

参加者:24名

<主な内容>



テーマ:大畑地区の経済・暮らし・各団体の悩みについて下記のとおり対話

項目	参加者から	市長から
むつ市商工 団体補助金	むつ下北地域内6商工会で合併を協議しているが、合併後に補助金の要望はできるのか。	補助金は継続できると考えている。合併によるメリットは、イベントの予算は変わらずに、他の地区の人にも手伝ってもらえるというところがある。
	商工会会員(事業者)のために新たな事業を企画しようとした場合、補助金の増額は可能か。	補助金については、予算審査の際に別途資料を作成し、具体的な用途を明示したうえで、議会に承認いただいている。用途を変更したい場合は議会から承認を得る必要がある。
電源立地地域としての活動	立地4市町村長、むつ・大間・東通商工団体の要望活動の際に隣接商工会として同行したい。	今年度からは共創会議が立ち上がり、4市町村での活動はしていないが、具体的な課題解決の場をつくるということで市が橋渡し役となることはできる。
地域資源・ 観光	水産資源回復のために、行政が取り組むべき課題をどのように捉えているか。	合併して20年経ったが、次の10年は新むつ市として一緒にやっていくことが大事だと思っている。水産資源の話では、海水温の上昇、回遊魚の減少も影響があると思う。資源を維持する取り組みも必要だが、国内人口は減少していくので、国外に販売して行かなければならないと考えている。
	薬研～佐井線の開通時期をゴールデンウィーク前にするよう、県に要望してほしい。	FLATで出た意見は県や国にも伝えている。早期通行できないか、意見を届けさせていただく。
防災	デジタル防災無線で、庁舎・町内・漁協などの生活関連の放送への対応を考えているか。	今年度中にスマートフォンで、防災無線の内容を聞くことが出来る仕組みを導入する。町内放送もできるし、消防団員限定で招集の放送を流すこともできる。
	線状降水帯対策として、貯水池の整備を検討してほしい。	排水ポンプと土嚢ステーションを設置したが、短絡的にできるところから着手した。現在、降水量や浸水エリアなどを正確に把握するための計画を作成している。そのうえで、貯水池を整備する議論が必要となる。

項目	参加者から	市長から
防犯対策	大畑町商店街街路灯の防犯灯への切り替えについて、金融機関3店舗のATMが稼働している区間は防犯上の観点から道路両側に防犯灯を設置してもらいたい。	全て切り替わった後に暗い地域があれば、御要望いただきたい。

- 多団体合同でのFLAT-ふらっと-を実施。
- 様々な分野における御意見があり、時間が足りなくなった。

■第11回 11/22 おつ養護学校 PTA

場 所:おつ養護学校体育館

参加者:8名

<主な内容>

テーマ:防災や災害時の避難場所、避難経路の課題と取り組みについて下記のとおり対話



項目	参加者から	市長から
災害時の避難場所	津波災害時の避難場所について、移動に時間がかかる子、難しい子が多いので、日中であれば、そのまま学校にいられるようにしてほしい。	津波の予想到達時間から学校にとどまった方がよい。津波到達後は物資や供給の点から1カ所に集まった方がいいため、津波到達後に避難所や福祉避難所に向かった方がいいと思う。
	市内の小中学校に一人ずつ防災バッグを準備して、常備しておくことはできるのか。	海溝型の地震であれば、1番危惧されるのは津波。何も持たずに垂直避難が原則となる。防災バッグも大事だが、生死の境とされる72時間を乗り越えられるよう、全国的にそれぞれの御家庭で準備しておくようになっている。
	自宅から避難する場合、障がい児がいる家庭はどうしても時間がかかる。丈夫な3階建て以上の建物に優先的に避難できないものか。	避難所は公共施設に限らず、民間にも協力いただいている。提携先を増やしているところではあるが、加速して取り組んでいきたい。

項目	参加者から	市長から
要支援者に対する情報発信	要支援者登録を行ったが、情報が来ない。要支援者用の情報を得る方法はないか。	むつ市公式 LINE では、欲しい情報だけを選択できるようにセグメント配信を行っている。 要支援者用の運用については検討する。
避難訓練	休日に、障がい児を持つ家庭を対象とした避難訓練があれば参加しやすい。障がい者が実態を見てもらわないと、大変な部分が伝わりづらい。	対象を限定した避難訓練はできなくはない。 先月開催した防災フェアの目的の一つとして、災害時に関わる人たちとの顔合わせがある。 できる限り迅速に動けるよう訓練は行っているが、まずは自分自身の安全の確保をしてほしい。
ユニバーサルトイレの増設	もっと多くの場所に設置してほしいほか、設置場所が周知されていない。	周知方法を検討する。

- 障がいを持つ子の悩みや課題について対話した。
- 回収したアンケートには、「疑問、不安の解消に繋がった。」や、「このような対話型の機会が増えていくことを期待します。」などの声があった。

■第12回 11/22 関根中学校

場 所:関根中学校

参 加 者:28名

<主な内容>

テーマ:こどもの権利について下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
差別の禁止	男女差別をなくするため『男女差別しません宣言』を行ってはどうか。 また、LGBTQ+についても学校で学ぶ機会をつくってはどうか。	平等と公平というのは違う。市民全員に同じことを行っても、個々の条件が違うので、不公平が生じる。また、自由とは良いことだけではない。自由にした結果、格差が生じるなど、厳しい一面があることを知ってほしい。
意見を表す権利と表現の自由	子どもが意見を出しても否定されるほか、校則も多い。 子どもが意見を出していくためにも、他校の生徒と情報共有する場を設け、話し合いたい大人と話せる機会があれば良いと思う。	歌については、市が作成し皆さんに提示しても広まらないので、発展させていくため、皆さんで作ってみてはどうか。 毎月第3日曜日は家庭の日となっているので、まずは各家庭でふれあう時間を大切にしてほしい。
子どもにもっとよいことを	広く子どもの権利を知ってもらうために子どもの権利条約の歌を作って、放送してはどうか。	
生きる権利・育つ権利	虐待する要因として、仕事や育児のストレスがあると思う。 ストレスを減らすため、勤務時間を減らしたり、ベビーシッターや相談所、保育園・幼稚園を増やしたりすれば良いと思う。	

- こどもを対象とした FLAT-ふらっと-を初めて開催。
- キャリア教室の一つとして実施。
- この他、市長からは「こども笑顔まんなか条例に込める思い」についての話をした。

■第13回 11/29 大畑海峡口デオ

場 所:角違公民館

参加者:11名



<主な内容>

テーマ:漁師の元気、大畑の元気(漁業を活用した大畑の賑わいづくり)について、下記のとおり対話

項目	参加者から	市長から
漁業の活性化 (漁業者増加 について)	<ul style="list-style-type: none"> ①後継者不足で今後の漁業が不安。 ②大畑に漁業をやりたい人を呼び込みたい。 ③港付近の加工場を利用して呼び込んだ人用のシェアハウスを作りたい。 ④漁師になるきっかけがない。手軽な漁業体験や金銭支援を受けながら漁師になるパッケージがあればよい。 ⑤体制が整っても自立できなければならないので新規漁業者のフォローを漁協がしてくれればよいと思う。 ⑥浜に活気が出れば大畑地区に活気が出る。 	<p>【漁業者向けシェアハウスについて】 前向きに検討したい。補助金もあるので提案があればやっていきたい。</p> <p>【漁業者の受け入れについて】 制度として地域おこし協力隊がある。大畑地区で受け入れられる風土があればやっていきたいが、漁師が受け入れてくれるかが問題。漁業体験ができる船があればいいと思うので、1週間交代でいいので本日のメンバーが協力してくれればありがたい。</p>
漁業の活性化 (養殖について)	<ul style="list-style-type: none"> ①(漁業に)夢があることを見いだすには安定することが1番。そのためには養殖が1番いいと思うが、餌代が高くなっている。手間だけかけてお金がかからないものがあればいい。 ②二枚橋小や正津川小を活用した陸上養殖はどうか。 ③サーモン養殖は全国的に注目されて(行われて)いるが、販売ルートがないと失敗するのでサーモン以外の魚はどうか。 	<p>漁業が儲かることや夢があることを見いだせば(大畑に)来てくれる人もいるのではないかな。</p> <p>養殖業者の誘致は地元の漁師が儲からず還元がない。通年で収入が出る仕組みが必要。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ①桜ロードのライトアップや終着地点でのイベントの開催。 ②海水浴場に散歩に来ている人が多いことから周辺の土地を活用してキャンプ場や雪捨て場、茶屋の設置。 	<p>シェアハウスやライトアップなど地域の皆さんが想っているところに予算をつけていきたい。</p>

➤ 担い手不足やフォローアップ、養殖事業など漁業の活性化に関する具体的な対話を実施。

■第14回 11/30 町内会長

場 所:下北文化会館

参 加 者:39名



<主な内容>

理想のおつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話をしていた。その後グループ内の内容について市長と対話

理 想	参加者から	市長から
若者が帰ってきたいと思うおつ市	<p>①若者の減少対策のための有名大学の誘致や、働き場所の確保のための企業誘致をしてほしい。</p> <p>②閉校した学校を利用する農業法人の設立してはどうか。</p> <p>③魅力的な1次産業の創出に力を入れてほしい。</p> <p>④交通面で住みよい町づくりをしてほしい(市内全域を通る山手線のような公共交通機関や病院直結のバス、路面電車など)。</p>	<p>大学誘致については、来年度八戸学院大学看護学科ができる。</p> <p>若者の働き場所の確保のため、様々な場所へ赴き、企業誘致に取り組んでいる。</p> <p>交通については、運転手が不足している状態のため、無人自動車の研究に注目しており、補助金があれば導入を検討したい。</p> <p>また、既存のバスについては税金を投入して良いのであれば路線の拡張も検討したい。</p>
人口が増えていくおつ市	<p>課題としては、若者の市外流出や交通手段の利便性の不足が挙げられる。</p> <p>その他、人口を増やすためにもUターン支援の充実に力を入れたり、おつ市の産業の現状を知ったうえで強みを伸ばす施策をしてほしい。</p>	<p>交通手段について、居住地区にバスが来ないという意見は把握しているので、ムーヴィの運行ルートの見直しを行う予定である。</p>
人が多く住むおつ市	<p>①高齢者の生きる活力を高めるためにも100歳到達時の100万円贈呈を復活してほしい。</p> <p>②結婚サポートをしたら子どもが増えて行くのではないか。</p> <p>④市の財政のためにも、ふるさと納税のさらなる活用を考えていくべきではないか。</p> <p>⑤バス運営会社への補助をすることで、公共交通機関の充実を図ることができるのではないか。</p>	<p>現在、100歳を迎えた市民の皆様には3万円をお渡ししている。</p> <p>昔は100歳を迎える人が少なかったため、大きな金額を出せていたが、今は厳しい。</p> <p>憩いの家に、エアコンを設置したり、身体を動かせるゲーム機を設置したりしているので高齢者にも目を向けているということをご理解いただきたい。</p> <p>誘致活動については、力を入れているので期待してほしい。</p>

理想	参加者から	市長から
おもいやり、つながりのあるむつ市	<p>①災害時における自助の大切さを町内会や地域単位で啓発することは、自分たちで出来るので、市としては共助できる設備への支援をしてほしい。</p> <p>②次世代の積極的活動が課題だと思うので、盛り上がっているむつ市のアピールと次世代への活動支援をしてほしい。</p> <p>③町内会加入率の低下、運営の難化が進んでいるので、行政で、町内会入会のメリット等の発信をしたり、町内会が情報共有する機会の創出をしてほしい。</p>	<p>共助に力を入れるためにも、自主防災組織を立ち上げて欲しい。</p> <p>市の情報は市内への発信、市外への発信どちらも大事なので、紙媒体での広報紙もやめるつもりはない。</p>
医療・道路整備が行き渡り、若者が帰ってきたくなるむつ市	<p>①医療体制の充実を図ってほしい。</p> <p>②防災の観点から道路整備を推進してほしい。空き家が増えてきており、空き家の前の道路や側溝などが放置されがちになっている。</p> <p>③防災無線が聞こえない地域があるため、対策を講じてほしい。</p> <p>④若者が帰ってきたくなるように、娯楽施設を増やしてほしい。</p>	<p>弘前大学医学病院との連携により、リモート診断が可能となった。</p> <p>民間の企業と協力して高い建物を避難施設にしてもらおう取り組みを進めていきたい。</p> <p>下北縦貫道の整備が進み、令和14年度完成予定である。</p>
その他		<p>スマホアプリが防災無線の代わりにならないか試して、それがだめなら他の手段を考えていきたい。</p>

- FLAT-ふらっと-実施前には、町内会アンケート結果の紹介や、町内会毎の情報共有の時間とし、参加者からは、「他の町内会の課題やそれに対する対策、考え方が聞けて良かった。」との声があった。
- FLAT-ふらっと-後は、スマートフォン向け防災放送アプリ「コスモキャスト」の説明や実演会を実施した。

6. 「市民の声」としての対応

「市民の声」とは、市民及び団体からの提案、意見、要望及び苦情を総称して「市民の声」と呼んでおり、“受付 → データ登録 → 関係課で対応”の流れで処理をするもの。

「FLAT」での対話の際に伺ったもののなかから、「市民の声」として持ち帰り対応したもの。

		町内会名	要望標題	対応
第4回	1	上川町町内会	歩道の整備について	道路管理者である青森県（下北地域県民局）へお伝えしたところ、修繕を検討するとの回答を得ました。
	2		空き家対策について	所有者等の調査を実施し、文書にて適正な管理を依頼していきます。
第8回	3	栗山町町内会	標識の場所について	青森県公安委員会（警察）と協議し、標識の撤去等、検討していく旨の意向を確認しました。